

質問 平岩議員（自民 中津川市）令和8年3月13日（金）

1 リニア中央新幹線を活用したまちづくりの検討状況について

答弁 知事

「リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり」につきましては、ただいま議員がお話しいただきましたように、県庁内に関係部局で構成する「未来のまちづくり検討プロジェクトチーム」を設置し、これまで当該圏域の現状分析を行うとともに、関係する市町村、経済団体、観光団体の計37団体へのヒアリングなどを行いながら議論を重ねてまいりました。

その結果、まちづくりの3本柱として「国内外から訪れてもらえるまち」、「首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち」、そして「まちの魅力を高める基盤整備」、この三つを掲げまして、現在その実現のための具体的な施策について検討しております。

まず一つ目の柱であります「国内外から訪れてもらえるまち」を実現するためには、東京から1時間弱で結ばれ、トンネルを抜けると「別世界」の体験ができる特別な地域であるとの認識の下、既に存在します観光資源を積極的に磨くとともに相互に関連付けて面的な広がりにつなげていくことが重要と考えております。

具体的には、東濃・可茂圏域から下呂市や郡上市、高山市に至るまで、各地に点在する自然や食、歴史・伝統文化など、ここでしか体験できない魅力を結び付け、地域観光に周遊性を持たせて国内外に発信することが必要です。

例えば、リニア岐阜県駅に近い景勝地「恵那峡」エリアの総合的な観光地への再生のほか、農林業体験や自然を生かしたアウトドア活動と地域資源を連動させた広域周遊・体験型観光プログラムの開発や、一体的なプロモーションの展開などの取組が必要と考えております。

二つ目の「首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち」にしていくには、都会の人にとっても利便性が高く、魅力的で安心して生活できる環境を提供することが重要です。

具体的には、日本の中央に位置し、津波の心配がなく地震にも強いというこの地域が持つ地理的・地形的な優位性と、豊かな自然に囲まれたストレスのない環境を強みに、例えば、先端産業などの研究機関をはじめ、データセンター、防災庁などの新設機関や教育機関などの誘致に向けた積極的な取組が必要と考えております。

また、移住希望者への情報発信や相談対応、農泊と連携した農村体験などによる移住・二地域居住を推進していくほか、移住者が安心して暮らせるために、将来の医療需要を見据えた医療提供体制の構築や介護現場の人材確保、子育て支援体制の整備な

どが必要と考えております。

三つ目の「まちの魅力を高める基盤整備」では、訪れた人が目的地まで容易にアクセスでき、かつ働く人・住む人が快適に生活できるよう社会基盤を整備することが重要です。

その上で、まずはリニアで関東から訪れた方々が「別世界」に来たと感じられるようなリニア岐阜県駅や駅周辺の整備をはじめ、接続する濃飛横断自動車道や国道 19 号瑞浪恵那道路、圏域内の周遊を促進する道路網の整備、さらには岐阜県駅を起点とする自動運転も含めた公共交通ネットワークの充実などが必要と考えております。

最後に、リニアの開業効果は、東濃・可茂圏域に限定されるものではありません。今後は、まちづくりの具体的な方向性を基に、県内全市町村長や経済・観光関係者などで構成いたします「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会」にて議論を行い、来年度中に「リニア活用戦略」を改定し、リニアを活用したまちづくりの取組を進めてまいります。

担 当 課	リニア推進課
電話番号	058-272-8573
メー ル	c11135@pref.gifu.lg.jp